

富田城跡整備事業の第一期工事が終わり、 11月中には月山山頂に登城できます

現在進めている月山富田城整備・総合文化ホール建設・新庁舎建設事業は順調に工事が進んでいます。定期的に事業の様子をお伝えしているこの特集では、現在の様子や今後の予定などをお知らせします。

史跡富田城跡整備事業

間もなく登城が可能に
富田城跡整備事業

昨年末から山頂部分と七曲り部分の木々の伐採等を進めてきた第一期工事は、間もなく完了します。予定では11月下旬から、皆さんにも山頂に立つて古

の眺めを楽しんでいただくことができます。

これまで木々に埋もれて確認が難しかった三の丸から本丸にかけての防御施設の様子がよく分かります。西に突き出したように築かれた「西袖ヶ平」、七

曲り付近に設けられた曲輪群など、難攻の城の一端を垣間見ることが出来ます。今回の整備事業によって、戦うために築城された富田城を体感することが出来ます。（登城可能な時期は、行政告知端末等でお知らせします）

第二期工事は千畳平、馬乗馬場付近を整備します

引き続き進める第二期工事では、麓部分の曲輪の整備に着手します。千畳平の大石垣周辺では石垣の補修や木の伐採を、また、「馬乗馬場」では曲輪の様子が分かるように整備していきます。

このため、時期によっては工事車両の進入の必要があり、千畳平、太鼓壇の立ち入りを部分的に禁止する場合があります。安全を確保して作業を進めていきます。



▲ 2期工事の範囲。木々の伐採や石垣の補修など、千畳平、馬乗馬場付近を整備します。



月山富田城整備を
支援する会代表
平原金造さん

山頂の木々が伐採され、月山の様子が刻々と変化してきたのを毎日、見ながら当時の山城はこういう姿だったんだという思いを巡らせていました。七曲りも露わになり、険しい斜面であることがよくわかります。実際に登ってみれば、難攻不落の山城であることをより一層、体験することができますね。

今後は、見晴らしの良い山頂に立つことができるというPRをするとともに、案内板や休憩所などの受け入れ体制を整備していく必要があると思います。

4階までの鉄骨が組み終わり
30m弱の高さになりました

開館まで一年となった総合文化ホール「アルテピア」。建物全体を工食用足場が覆い、その大きさをうかがい知ることができま

「現在の躯体（建物の骨組み）工事は7割の進捗状況です。一階部分の仕上げ工事にも着手しています」と話すのは、工事現場代理人の池上信太郎さん（鴻池・平井建設特別共同企業体）。



新市庁舎建設事業

建設現場は身近な教材

十神小学校の3年生54人が9月26日、建設中の新安来庁舎を見学しました。社会科の授業の一環として訪れたもので、現場の担当者から工事概要の説明を受けた後、ヘルメットを着用して、槌音が響く建設現場の1階部分に入りました。

渡部紗菜さんは「少し怖かったけど、工事中の建物に入ることができてよかったです。登下校中にいつも見ていたので、気になっていました。完成したらまた、見にきたい」と話してくれました。

「年内には建物全体に屋根がかかるようになると思います」。

建築工事全体では9月末現在、43%の工程が完了し、順調に工事が進んでいます。大型クレーンによって大ホールの真上になる4階部分の鉄骨も組まれ、完成時の高さ29・9mの姿を遠くからでも見るようになります。

「アルテピア」は山陰自動車道沿いに建つので、高速を走行中に現場を見るとその大きさが

よく分かります。完成後もこの立地が、松江市や米子市などからのアクセスの良さにつながります。安来ICからは、側道を使つて約5分で到着することができます。

ホールは大小2つ
用途によって使い分けま

「アルテピア」には1008人収容の大ホールと、300人収容の小ホールがあります。現在は大ホール内に全体に足場が組まれ、全体を見渡すことができます。それでも大ホールでは、階段状の客席部分を確認することができません。さらにこの上には、2階客席もつくられることになりま

す。旧市民会館とは違い、舞台からの距離が近くなるので、2階席でも視界が十分に確保されたホールになります。一方、小ホールは多目的に使えるよう床面は平らで、客席も可動式になります。小学校のプール程度の広さとなる空間は、使い勝手がよさそうです。観客との距離も近いので、アイデア次第でいろいろな催しができます。

開館まで約一年となった総合文化ホール「アルテピア」は、準備が着々と進んでいます。



（左）大ホールの様子。収容最大人員は1,008人。1・2階に客席を分け、舞台までの距離をできるだけ縮めた設計です。

（右）小ホールの様子。客席は可動式で床は平ら。パーティーや社交ダンスなどにも使える多目的なホールです。